



まちの話題

問 秘書広報課：☎0869-24-7095

竹 下景子さんが瀬戸内市へ

2月27日、女優の竹下景子さんが錦海塩田跡地のメガソーラー（大規模太陽光発電所）建設地を視察しました。これは、竹下さんが主演した演劇「天使も嘘をつく」で、本市のメガソーラー事業が取り上げられた縁から実現したもので、竹下さんは瀬戸内市役所を表敬訪問した後、メガソーラー建設地とハビタット（自然生息地）などを見学しました。

竹下さんは、「この事業をきっかけに瀬戸内市のいいところを私も発見していきたいです。また、それが瀬戸内市だけではなく、世界に向けて発信され、皆さんに知られるところになればいいなと思います」と話しました。



武久頭也市長と談話する竹下さん（写真左）



ハビタットを見学中（左）／牛窓オーリーブ園からもメガソーラー建設地を見学（右）

メガソーラー建設地を視察

フ ロの音楽に触れる演奏会

中学生と岡山フィルハーモニック管弦楽団との合同演奏会



ゆめトピア長船で2月5日、市内3中学校吹奏学部と岡山フィルハーモニック管弦楽団の合同演奏会が開催されました。これは、中学生たちがプロフェッショナルの音楽に触れることで、音楽へのさらなる理解や興味を持ってもらうことを目的に行われ、今年で2回目。

途中には、生徒らによるボディ・パーカッションなどがあり、来場者も手拍子をして一緒に楽しんでいました。また、3中学校吹奏楽部と岡山フィルハーモニック管弦楽団との合同演奏では、今まで練習してきた成果を存分に披露し、その美しい演奏に来場者から大きな拍手が送られました。



3中学校吹奏楽部と岡山フィルハーモニック管弦楽団の合同演奏（左下）／打楽器隊によるボディ・パーカッション（右上）

い つまでもお元気で

100歳を迎えた高齢者をお祝い

2月3日に満100歳を迎えた森本綾子さん（牛窓町鹿忍）のお祝いに、2月10日、高原家直副市長らが施設を訪問しました。森本さんは家族と共に「ありがとうございます」と笑顔でお祝い状を受け取りました。

80歳くらいまで縫製の仕事をしていた森本さん、趣味は貼り絵や手芸で、バッグなどを作ってお孫さんたちにプレゼントしていました。

森本さん、これからもますますお元気で過ごしてください。



高原副市長のお祝いの言葉に耳を傾ける森本さん（写真左から2番目）

瀬戸内発見伝

巻之百二十七

瀬戸内市の民俗資料

左の写真に写っているものを
ご存じですか。
瀬戸内市教育委員会では、



写真のような昔のくらしの様子をものがたる民俗資料を保管し活用しています。

これまで、邑久郷土資料館や牛窓民俗文化資料館などで保管、展示されていましたが、いずれの館も閉館しました。

現在は、これらの資料の中から一部を市民図書館で展示を行っているほか、小・中学校などへ貸し出しを行っています。小学生の皆さんは、授業で目にしたことがあるかもしれません。
上の写真は、「湯たんぽ」です。

暖を取る道具

寒いときに暖を取る道具としては、炬燵、行火、懐炉などがあります。

先ほどの湯たんぽは、布団の中に入れて足元などを温める道具ですが、室町時代から陶器製のものが主に使用されてきました。写真のような金属製の物は、大正時代から使われるようになりました。
布団の中に入れて使用した行火も古くは炭を陶器の中に入れて、その陶器を木枠や陶器製の槽に納めたものでした。

衣類のしわを取る道具

就寝中に足で蹴って槽が回転しても火の付いた炭が飛び出さないように工夫がされた安全炬燵もありました。
また、豆炭を使用したものもできました。その後、電気を使用し、温度調整が行えるものになりました。

江戸時代から、「火熨斗」と呼ばれるひしゃくのような形状のもので、火の付いた炭を入れた丸い金属部分を布に当てて、しわを伸ばしていました。

明治時代に、炭火アイロンが外国から入ってきました。右下の写真の左端に写っている物で、中に火の付いた炭を入れその熱で布のしわを伸ばしました。

大正時代には、電気式アイロンができました。最初は温度の調節ができませんでしたが、温度調節機能やスチーマ機能などが付き、便利になりました。



アイロンなどの民俗資料

時代の変化とともに進化する日用品を見るのは懐かしく楽しいもので、世代を超えた会話につながるのではないかと思います。

さらに詳しく知りたい人は、次の町史をご覧ください。
・牛窓町史「民俗編」
・長船町史「民俗編」